松山城南 総合3連覇

ロード 渡辺（男子個人）7位、大蔵（女子個人）4位

全国高校総合体育大会（インターハイ）第7日は2日、沖縄県名護市特設コースなどで10競技が行われ、愛媛勢は自転車の男子学校対抗で松山城南が3年連続3度目の総合優勝を飾った。男子個人ロードレースは渡辺諒馬（松山城南）が7位、女子個人は大蔵こころ（松山城南）が4位に入った。

ボクシングでバンタム級の松本敬人（松山工）が決勝に進出した。

バスケットボール決勝で男子は福岡第一が北陸（福井）を107―59と圧倒し、3年ぶり3度目の優勝を果たした。女子は桜花学園（愛知）が岐阜女を72―59で下して2年連続24度目の制覇。

体操の個人総合で男子は北園丈琉（大阪・清風）が87・100で勝った。10月の世界選手権代表の橋本大輝（千葉・市船橋）は2位。女子は塙遥香（千葉・東京学館）が制した。団体総合の男子は市船橋が2年連続6度目、女子は大智学園（東京）が9年ぶり3度目の王座に就いた。

重量挙げ81キロ級は宮下一樹（石川・飯田）、自転車男子個人ロードレースは美甘昊次郎（鳥取・倉吉総合産）が優勝した。

全国高校総体 第7日

【男子個人ロードレース】7位入賞を果たし、トラックとロードを合わせた学校対抗の総合3連覇に貢献した松山城南・渡辺諒馬（中央）＝沖縄県名護市特設コース

相次ぐ苦境 最善尽くす

自転車の男子学校対抗で3年連続の総合優勝を果たした松山城南。プレッシャーから解放されたためか、選手たちはメダルを首にかけ、ほっとした表情ではにかんだ。

普段なら最高の状態をつくり上げているはずだった。大会前、多くの選手が胃腸炎にかかり、松山市内の練習施設も改修で使えず、今回は不安を残したままの沖縄入り。鮫島監督が「今までで一番苦しかった」と語る逆境だったが、緑と黒のジャージーは今大会もしっかりと存在感を示し、前日にはトラック総合のタイトルを手にしていた。

迎えた最終日のロードレース。94・3キロのコースは傾斜のバリエーションに富み、勝負の仕掛けどころがつかみにくい。さらに連日の猛暑から一転、激しい雷雨に見舞われた気象の変化はレースを混乱にした。

渡辺諒馬と北宅柊麻の頭にあったのは、総合得点で2位以下の学校をいかに引き離すか。だが、優勝候補筆頭の北宅が途中でパンクするアクシデント。総合優勝の行方は渡辺に託された。

雷雨による中断からレース再開後、渡辺は約10人の集団を形成してトップを追走。山を越え、残り15キロの平地に入ったところでペースを上げ、ゴールまで約7キロの地点で上位2人を捉えた。渡辺は「絶対に後ろに下がらない」と最後まで激しく競り合い、勢いそのままに7着。周囲に総合優勝を争うライバルの姿はなく3連覇を確信した。

大会中、苦しい状況でもベストを尽くす姿を示した3年生の渡辺は「自分たちの走りを見て学んだことを次へつなげてほしい」と後輩にエール。そんな思いを1年佐藤壮志は「自分たちがしっかりと引き継いで4連覇できるように頑張りたい」と受け止めた。

（金尾公貴）

自転車

（沖縄県名護市特設コースほか）

▽男子トラック競技学校対抗得点

①松山城南（愛媛）27②敦南工（岐阜）24③科学技術（福井）23④岡山工（岡山）21⑤九州学院（熊本）20⑥取手一（茨城）19⑦北条田（京都）19⑧横浜（神奈川）18

（6、7位は上位入賞者数による）

（松山城南は3年連続3度目の優勝）

▽同ロード競技学校対抗得点

①佐生学園（奈良）24②倉吉総合産（鳥取）20③安北（埼玉）16④東北（宮城）14⑤八王子桑志（東京）13⑥市橋工（静岡）12⑦松山城南（愛媛）11⑧横浜（神奈川）10

（佐生学園は6年ぶり3度目の優勝）

▽団学校対抗得点

①松山城南（愛媛）29②敦南工（岐阜）24③科学技術（福井）23④岡山工（岡山）21⑤九州学院（熊本）20⑥取手一（茨城）19⑦横浜（神奈川）19

（6、7位は上位入賞者数による）

（松山城南は3年連続3度目の優勝）

◇愛媛勢の成績…◇

▽男子個人ロードレース（94・3キロ）①渡辺諒馬（松山城南）2時間37分34秒8②武智光（松山東）2時間37分55秒0③村上裕二郎（松山工）2時間38分36秒6、北宅柊麻（松山城南）＝途中棄権、増田伊吹（松山工）＝途中棄権

▽女子個人ロードレース（51・5キロ）④大蔵こころ（松山城南）1時間39分17秒1

男子学校対抗総合3連覇を果たした松山城南の選手ら＝沖縄県名護市民会館

来年に向け脚力強化

大蔵 こころ

松山城南・大蔵選手（女子個人ロードレースで4位入賞）「残り150メートルでスプリントをかけて最後までアタックできた。ただ最初の（上りで）上位に引き離されてしまったので、来年に向けて脚力を鍛えたい」